

和歌山大学

事業名	留学生等地域交流事業「和歌山の世界遺産を学ぶ」						
実施期間	平成26年8月29日、9月5日～6日、12月21日						
場 所	和歌山大学構内および和歌山県内世界遺産関連地域						
参加者	外国人留学生	地域住民	学生	スタッフ	関係者	来場者	合計
	70	30	20	10	20	100	250 名

<実施内容>

「紀伊山地の霊場と参詣道」がユネスコの世界文化遺産登録10周年にあたる今年、和歌山大学国際教育研究センターと留学生の支援団体であるNPO法人WINコンコードは、「和歌山の世界遺産を学ぶ」という事業を初めて共催し、9月5日、6日に、留学生31名、日本人学生4名が熊野三山や熊野古道への研修旅行に参加しました。事前の勉強会を行い、現地では、和歌山の世界遺産の普遍的価値や歴史ある参詣道を守り継いでいくことの大切さ、そのための保全活動が市民参加で行われていることを学びました。



和歌山県世界遺産センターの先生からお話をうかがいながら熊野古道を歩く



いにしへの巡礼者がたどった道



熊野速玉大社



大門坂近隣の方のお宅訪問

また12月には多くの地域の方々に留学生が経験と感想をご報告させていただきました。報告会では、市民約100名が参加する中、フィールド研修の参加者を代表してグエン・ニュー・イーさん(ベトナム)、陳思旖さん(中国)、宋謙さん(中国)が事業概要と感想を発表しました。イーさんは、たくさんの写真やクイズも用意し、楽しく熊野古道についての体験を紹介し、陳さんは、世界遺産センターや地域の人々から学んだこと、さらに昔の人たちの苦しさを想像し、今の交通事情を考えるとこの幸せな生活を大切にすべきであるとの思いを語りました。宋さんは世界遺産を守り、次世代に責任を持って継承していくことの重要性和、その地域の普遍的な価値を人類全体の遺産として保護していくことが世界遺産の目的であることを忘れてはならないと訴えかけ、自分達学生が世界遺産の魅力や大切さを伝えるために力を尽くすことが使命であると語ってくれました。和歌山大学ホームページ掲載記事：<http://www.wakayama-u.ac.jp/ier/file/2014.9.sekai-isan-manabu.pdf>

<参加者からのコメント>

王 翔渤さん(中国)/Wang Xiangbo

今回熊野古道のウォークプログラムで、自ら歩くことで、古代の人たちの気持ちが少し分かってきた。それに、世界遺産はなぜ世界遺産になったのか、そのすごさも分かってきた。それはその世界遺産を持つ国にとってかけがえのない存在としてだけでなく、世界文明の進化を促進した存在とも言えるだろう。自分もこれから今回のプログラムで勉強したり、感じたことをより多くの人に伝え、さらに外国の方たちと話すとき恥ずかしくないように、母国の世界遺産に対する理解を深めていきたい。

王佳寧さん(中国)/Wang Jianing

今回の旅行では熊野古道の文化や歴史を感じることができ、それらを学ぶ中で仲間の大切さが分かるようになった。全体として、自分で考えて行動することもできたし、楽しむことができ、勉強になることもあって、留学生の絆も深めることができた。このような最高の思い出ができたのは学校の先生やWIN コンコードのお父さんお母さん、運転手さん、地元のガイドさんなど多くの方々のおかげだと思う。それに対する感謝の気持ちやお礼の気持ちは言葉にして伝えるのも大切だが、行動で示すことが大事だと自分は思う。